

新聞情報を3つ紹介します

① マチズモ

「ジェフリー通信」前号(NO.134)で、女子サッカーワールドカップで、「ジェンダー平等(GenderEquolity)」の腕章を付けた日本の熊谷沙希主将(右)の情報を嬉しく思い掲載したが、実は残念な後日談がありました。優勝したスペインのサッカー連盟会長が表彰式で代表選手の一人の頭を両手で包み口にキスをしたのだ。後で選手が「嫌だった」と発信したことで、これは世界の面前で堂々で行われた性的暴行疑惑となった。会長は官民の抗議に対抗し、大勢の聴衆を前に「私は辞めない」と繰り返し、会場の大勢が喝采し、男性監督も拍手したという。

こうした人たち(彼ら)の表情には「女どもの横暴に屈してたまるか。俺のキスを嫌悪するとは生意気な。万国の男よ、団結せよ」とでも言いたげな**マチズモ(男性優位主義)の本音**がにじみでていた。油断していたら時代は瞬く間に逆戻りしそうだ。(師岡カリーマ「東京新聞」2023年9月2日より抜粋)

② 家事負担 妻が8割、平日は夫の5倍！

厚生労働省所管の国立社会保障・人口問題研究所が2022年に実施した「全国家庭動向調査」で、夫婦の家事分担に関し、妻の担う割合が80.6%の高水準。平日は妻が夫の約5倍の時間を家事に費やしており、偏りが目立った。

平均家事時間は妻が平日247分、休日276分に対し、夫は平日47分、休日81分。夫の家事で多かったのは週1.2回以上のゴミ出し57.7%、食事の片付け47.8%。全くしないのは炊事50.4%、洗濯42.3%などでした。

育児に関しては妻が78.0%を担い、平日は夫の約4倍となる524分、休日は2倍近い724分を費やしていました。夫婦の負担割合について社人研担当者は、「これまでの傾向が続き、バランスの悪い状態が解消されていない」としている。
(「朝日新聞」2023年8月23日より)

★③ 既婚女性75%「同性婚法律で認めるべき」

既婚女性の4人に3人が「同性婚を法律で認めるべきだ」と考えている—こんな結果が上記「全国家庭動向調査」で明らかになった。夫婦別姓にも既婚女性の6割が賛成と答えた。

調査は出産や子育て、家族関係の実態を把握するため1993年にはじまり7回目。5518人の既婚女性を対象に昨年調査した結果をまとめた。

「男性どうしや女性どうしの結婚(同性婚)を法律で認めるべきだ」への賛成は75.6%。

「同性どうしのカップルも男女のカップルと同じように子どもを育てる能力がある」は78.8%で前回から10ポイント近く増えた。

夫婦別姓に関しては、「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」への賛成は61%。前回から10.5ポイント増え、過去最高となった。
(「朝日新聞」2023年8月23日より)

講演・講座／会場・オンライン(ZOOM)参加しました

■ ドキュメンタリー映画「霧幻鉄道—只見線を300日撮る男」

監督 安孫子亘
会場 東久留米市まろにえホール
主催 3市福島県人会霧幻鉄道上映実行委員会 9/17

■ ぼうさいこくたい2023

被災者支援制度を各セクターから考える～有効な被災者支援の為に
講師 畠山順子(NPO法人あきたパートナーシップ理事長)
齋藤由里子(公益財団法人味の素ファンデーション事務局長)
菅野拓(大阪公立大学大学院文学研究科准教授)
阿部智幸(NPO法人フードバンク岩手副理事長)
主催 防災推進国民大会2023実行委員会(内閣府)
会場 横浜国立大学&オンラインのハイブリッド 9/17

■ EqualPayDay(イコール・ペイ・デイ:EPD)全国会議

賃金の男女格差解消に向けて～昭和モデルから令和モデルへ
講師 安藤英樹(厚労省雇用環境・均等局雇用機会均等課長)
大湾秀雄(早稲田大学政治経済学部教授)
藤田ひろみ(税理士・日本BPW連合会監事)
主催 認定NPO法人日本BPW連合会
後援 内閣府男女共同参画局・厚生労働省
会場 婦選会館とオンラインのハイブリッド 9/18

■ 首都圏の地震防災—関東大震災100年に考える

講師 永井理(東京新聞編集委員)
主催 東京新聞—ニュース深掘り オンライン 9/21

■ ステレオタイプ・偏見との向き合い方—プリンセス像や血

液型占いと無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)
講師 上瀬由美子(立正大学心理学部教授)
主催 東京都人権プラザ(人権問題都民講座) オンライン
9/29